

景観まちづくり学習助成事業実施校 学校名 富曾亀小学校

① 学習指導案

プログラム	No.11 「地域気景観プランナーになろう」
単元名 (全70時間)	たどって 感じる 川とわたし
学習のねらい	多様な視点から五感を生かして体験的に川とかかわる中で、「川のある風景」の意味や価値をとらえ、川と共に生きる自分の在り方を見つめていく。
学習内容	1 学校脇の菱川をたどり、川でしたいことや調べたいことを見出す。 2 プロジェクトを立ち上げ、菱川を調査し、成果物や収集物で学校のホールに「川のある風景」をつくる。 3 信濃川や相川川など、他の川をたどり、違いや共通点を見付ける。 4 体験してきたことや菱川の在り方をまとめ、他学年の児童や保護者、市の河川港湾課などに発信する
参考資料 準備品 実施場所等	○調査用物品（あみ、かご、飼育ケース、検査キット等）、展示用物品（水槽、ポンプ、ハーバリウムセット、押し花用フィルム等） ○川（菱川、相川川、大河津分水等）、教室、学年ホール

学習の流れ

時間	学習活動	教師の指導	評価
2 32	○学校脇の菱川をたどる。 ○川でしたいことを基に、チームに分かれて活動する。プロジェクトを立ち上げ、調査活動を行う。プロジェクト活動での成果物や収集物をホールに展示し、「川のある風景をつくる」	○子供が川の何に興味をもっているかを捉え、子供がしたいことが実現できるようにグループを組んだり、用具を用意したりする。 ○他の川を調査する際に、生き物や植物の種類、水のきれいさやゴミの有無など、菱川と比較しやすいよう視点を示す。	【発見する力】 ・川に関心をもち、活動の見通しをつかむ。 【追求する力】 ・道具や方法を考へて、調べたことを記録する。
16 10	○他の川を調査する。（小曾根用水、相川川、大河津分水） ○プロジェクトごとに調査結果等をまとめ、校内で展示イベントを開く	○実物で展示する、模造紙にまとめる、スライドを作成するなど、グループごとに適した発信方法を選択させる。	【表現する力】 ・調べたことや自分の思いを分かりやすく工夫して表現する。
10	○菱川の護岸工事の現状について学び、工事に賛成か反対の立場から意見主張をまとめ、保護者や河川港湾課の方に発信する。	○河川港湾課の方を講師とした出前授業を設定し、自分たち人間の生活のために川を利用していくことに気付かせる。	【自己を見つめ、行動する力】 ・自分と川とのかかわりについて考える。

<留意点>

○河川に学校の活動として入ってよいかを、自治体の河川管理担当に確認し、事前に許可を得る。

○川に入る活動の際には、事前に下見や現地担当者と打ち合わせをし、安全性の確保を徹底する。

② 事業実施報告書詳細

学校名 長岡市立富曾龜小学校

時間数	場所	概要	活動記録（写真）	対象者の反応
2	菱川	○学校脇の菱川をたどり、川の様子を探る。		○「生き物を捕まえてみたい」「川のごみを拾ってきれいにしたい」など、川とのかかわりたいいう意欲を高めた。
10	菱川	○川でしたいことを基に、チームに分かれて活動する。（生き物調査、植物調査、水の調査、ゴミ拾いの4つのチーム）	 	○生き物や植物の採集、ゴミ拾いなど、したいことを繰り返す中で、「思ったより生き物が多い」「菱川の水は濁って汚れている」などそれの視点からの気付きが生まれた。
22	教室 ホール 他の川	○プロジェクトを立ち上げ、小グループごとにテーマを決めて調査活動を行う。（「生き物」「植物」「環境」の3つのプロジェクト） ○採集した生き物や植物、収集物などを学年ホールに展示し、「川のある風景」をつく	 	○「上流、中流、下流ごとの生き物の違い」「これまでに採ってきた植物の名前調べ」「拾ったゴミの種類と数」など、これまでの体験を通して興味を持ったことをテーマとし、

		る。		調べ学習を進めた。 ○採取した場所ごとに分けた生き物の水槽をつくり、採集してきた植物でハーバリウムや押し花を作ったり、拾ってきたゴミを洗ってホールに並べたりし、川の環境や様子をホールに再現しようとしていた。
16		○他の川を調査する。 (小曾根用水路、相川 川、大河津分水)	  	○他の川も調査することで、川ごとに生き物や植物、水のきれいさなどの違いがあることに気付いた。
10	教室 ホール	○プロジェクトの調査結果をまとめ、校内その他学年向けに展示イベントを開催する。 (調査結果を模造紙や手作りの図鑑、スライド等にまとめ、展示物に関するクイズをつくって1~6年生招待する。)	 	○自分たちの調べたことに他の学年の仲間が興味をもってくれたことや、クイズを楽しんでくれたこと、展示物に興味をもって見てくれたことを喜んでいた。
10	教室 ホール	○河川港湾課の方を招いて菱川の護岸工事の現状について学び、工事に賛成か反対の立場から意見をまとめ、保護者や市の河川		○生き物や植物と自分たちの生活、整備された景観と自然が豊かな川の景色など、葛藤を抱え

		<p>港湾課の方に向けて発信する。</p>		<p>ながらも、自分がどちらを大切にしたいかを考えたり、どちらも大切にする折衷案を調べたりしながら、自分にとっての「川のある風景」とはどんなものなのかについて考えを深めていた。</p>
--	--	-----------------------	--	--

③ 実施内容について

(1) 実施にあたり工夫した点

子供が「川のある風景」の意味や価値を見つめていく上では、何よりもまず、子供が五感を生かし、全身で川と関わり、「川のある風景」に入り込んでいける経験が大切であると考えた。そこで、まずは身近な川をたどるところから始め、川でしたいことを存分にし、そこから得た学びや疑問を基にプロジェクトを立ち上げた。子供がしたいことや知りたいことを活動の軸にして展開していくことを大切にした。

広い学年のホールに川から採集してきた生き物や植物、拾ったゴミなどを展示していくスペースや物品を用意し、活動が進むにつれてそれらが充実していき、ホール自体が「川のある風景」の再現となっていくような環境づくりを行った。

発信する活動は、子供の思いの延長に発信が位置づくように仕組んだ。具体的には、ホールにつくってきた「川のある風景」を見てもらいたいという思いから校内の展示イベントを開いたり、菱川の工事の現状に抱いた共感や反感を基に工事の在り方についてまとめて発信したりするようにした。

(2) 実施にあたり苦労した点

学校近くには菱川以外にも猿橋川や栖吉川などがあり、年度初めの構想時点ではそれら複数の川に入って活動することを考えていたが、どれも自治体の河川管理担当から許可が下りず、継続的に入れるのが菱川のみになってしまった。子供が実際に川に入って活動できる環境が非常に限られることに難しさがあった。

また、学年が3クラス合計94名と人数多いため、子供たち一人ひとりが自分のしたい活動をしたり調べたいことを追求したりできるようにプロジェクトやチームを組むことや活動の際に安全が確保できるように職員配置を考えたりすることに苦労した。

(3) 児童の反応

川での活動を繰り返す中で、「先生、来週は川行きますか?」と教師に尋ねるなど、総合

的な学習の時間に川へ行くのを楽しみにする子供が増えていった。これまで視界には入っていても気にしていなかった川の存在を意識するようになったように感じる。

プロジェクト活動では、自分なりの視点をもって川への興味関心を深めていく子供の姿があった。また、単元の最後に位置付けた、「ひし川工事に賛成か反対か」を考える活動を通して、生きものや縁が豊かな川であってほしいと願いつつも、自分たちの生活用水の確保、災害の予防という点ではコンクリート化も必要なことであると、葛藤を抱える子供が多かった。自分の住む地域に川が流れていることについて、その意味や価値、危険性など、多面的に考えを深めていた。

(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化

担当教諭自身が川に興味を持つようになり、ふと通りかかった川で生き物や植物を眺めたり、どこから流れてきているのかを調べたりするようになったと感じている。

また、学校のホールに4年生が蓄積している展示物等（乾かしているドライフラワーや水槽で飼育している水生生物、拾ってきて分別したゴミ等）を見かけた担当外教諭が、子供や担当教諭と川の活動について話す姿が見られるようになった。

(5) 今後の課題と取り組み [児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等]

学校脇を流れる菱川と信濃川等の他の河川とを比較する活動において、教師が想定していたよりも児童の思考に深まりがみられなかった。これは、菱川が正式には用水路に分類されることから、一級河川等との単純な比較が難しかったことが原因の一つであると考える。菱川の用水路としての側面を重視し、地域の方や米作りを行う方から見た菱川の存在について話を聞く活動などを取り入れることで、より「川のある風景」についての考えを深めることができるだろう。次年度の活動に引き継ぎたいと考える。